

ホクコートップジン®M水和剤

■種類名：チオファネートメチル水和剤
 ■有効成分：チオファネートメチル----- 70.0%
 ■PRTR指定物質：チオファネートメチル [第1種] ----- 70.0%

■登録番号：第11575号
 ■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 ■登録初年：1971.05.01
 ■性状：淡褐色水和性粉末 45μm以下
 ■有効年限：4年
 ■包装：250g×60袋、500g×20袋
 333g×30袋(地域限定)

【特長】

- 広範囲の病害に有効なベンズイミダゾール系殺菌剤。
- 予防効果だけでなく、強い浸透力により治療効果も有する。
- りんご、なしなど果樹類から果菜・葉菜などの野菜類、花類など極めて幅広い作物に適用がある。

【適用内容】(2015年11月11日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チオファネートメチルを含む農薬の総使用回数	
みかん	貯蔵病害(軸腐病) 貯蔵病害(青かび病) 貯蔵病害(緑かび病)	2000~3000	200~700 ℓ/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	8回以内 (塗布は3回以内、 散布、空中散布及び 無人機散布は合計5回以内)	
	そうか病 灰色かび病	1000~1500						
かんきつ (みかんを除く)	貯蔵病害(軸腐病) 貯蔵病害(青かび病) 貯蔵病害(緑かび病)	2000~3000		1500~2000	収穫前日まで		6回以内	10回以内 (塗布は3回以内、 灌注は1回以内、 散布は6回以内)
	黒星病 うどんこ病 黒点病 褐斑病	1500						
りんご	輪紋病 すす点病、すす斑病	1500	—	休眠期~ 生育期	1回	灌注		
	腐らん病 モニリア病(実腐れ)	1000~1500						
	白紋羽病	500~1000						
なし	黒星病 うどんこ病	1500~2000	200~700 ℓ/10a	収穫前日まで	6回以内	散布	11回以内 (塗布は3回以内、 休眠期の散布は1回以内、 灌注は1回以内、 生育期の散布は6回以内)	
	腐らん病	1000						
	輪紋病	1000~1500						
	心腐れ症(胴枯病菌) 胴枯病	1500						
	白紋羽病	500~1000	—	休眠期	1回	灌注		
マルメロ かりん	腐らん病		200~700 ℓ/10a	収穫前日まで	6回以内	散布	9回以内 (塗布は3回以内、 散布は6回以内)	
かき	うどんこ病 炭疽病 落葉病 黒星落葉病 すす点病	1000~1500						
	灰星病 黒星病 ホモプシス腐敗病							
もも	枝折病	1000					10回以内 (塗布は3回以内、 休眠期の散布は1回以内、 生育期の散布は6回以内)	
ぶどう	灰色かび病 褐斑病 うどんこ病 黒とう病	1500~2000	—	収穫45日 前まで	1回		5回以内 (塗布は3回以内、 休眠期の散布は1回以内、 生育期の散布は1回以内)	
	晩腐病 芽枯病	1000						
	苦腐病	1000~1500						

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数		
小粒核果類	灰星病 環紋葉枯病 葉炭疽病	1500	200~700 ℓ/10a	収穫 21 日 前まで	3 回以内	散布	すももは 6 回以 内(塗布は 3 回以 内、休眠期の散布 は 1 回以内、 生育期の散布は 3 回以内)、 その他の小粒核 果類は 6 回以内 (塗布は 3 回以内、 散布は 3 回以内)		
	黒星病 黒粒枝枯病	1000~1500							
おうとう	灰星病、せん孔病 幼果菌核病			収穫 14 日 前まで			6 回以内 (塗布は 3 回以内、 散布は 3 回以内)		
びわ	ごま色斑点病	800		収穫後 (7月上旬~ 9月上旬)	1 回	灌注	7 回以内 (塗布は 3 回以内、 散布は 3 回以内、 灌注は 1 回以内)		
	灰斑病	1000							
	白紋羽病	300~500	—						
いちじく	黒葉枯病	1000	200~700 ℓ/10a	収穫 7 日前 まで	5 回以内	散布	14 回以内 (塗布は 3 回以内、 灌注は 6 回以内、 散布は 5 回以内)		
	黒かび病	1000~1500							
	そうか病	1500							
	株枯病	500	1~10 ℓ/株	収穫前日 まで	6 回以内	灌注			
キウイフルーツ	果実軟腐病	1000	200~700 ℓ/10a	収穫前日 まで	5 回以内	散布	8 回以内 (塗布は 3 回以内、 散布は 5 回以内)		
りんご(苗木) なし(苗木)	白紋羽病	500	—	植付前	1 回	10 分間 根部 浸漬	6 回以内		
もも(苗木)							7 回以内 (散布は 6 回以内)		
桑(苗木)							3 回以内		
水稻	ばか苗病	300~500	—	は種前 (浸種前 又は 浸種後)	—	6~24 時間 種子浸漬 10 分間 種子浸漬	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内)		
		30							
小麦	雪腐病	2000~2500	60~150 ℓ/10a	根雪前	3 回以内 (出穂期以 降は 2 回 以内)	—	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、散布及び 無人刈散布は合計 3 回以内、出穂期 以降は 2 回以内)		
	雪腐大粒菌核病	1000	25 ℓ /10a						
	赤かび病	250	60~150 ℓ/10a	収穫 14 日 前まで	—	—	—		
	うどんこ病	1000~1500							
	眼紋病	2000							
麦類 (小麦を除く)	雪腐病	2000~2500	60~150 ℓ/10a	根雪前	3 回以内 (出穂期以 降は 1 回 以内)	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、出穂期以 降は 1 回以内)		
	赤かび病	1000~1500		収穫 30 日 前まで	—			—	—
	うどんこ病	2000							
	眼紋病	1000							
えだまめ	菌核病	2000	100~300 ℓ/10a	収穫 7 日前 まで	3 回以内	—	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は 種後は 3 回以内)		
だいず	紫斑病	種子重量の 0.5%	—	は種前	1 回	粉衣	4 回以内 (種子への処理は 1 回以内)		
		1000~1500	100~300 ℓ/10a	収穫 14 日 前まで	4 回以内	散布			
	菌核病	700~1000							

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	チアフェートメチルを 含む農薬の 総使用回数		
あずき	菌核病	700~1000	100~300 ℓ/10a	収穫 14 日 前まで	4 回以内	散布	5 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後 は 4 回以内)		
	輪紋病、炭疽病	1000		収穫 7 日前 まで					
いんげんまめ	角斑病、菌核病 苗立枯病	700~1000						収穫 7 日前 まで	
	炭疽病	700~1500							
えんどうまめ		1500~2000		収穫前日 まで	3 回以内		4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は 種後は 3 回以内)		
さやえんどう 実えんどう	褐紋病、褐斑病 灰色かび病	2000							
なたね	菌核病	1000		収穫 21 日前 まで	3 回以内 (開花後は 2 回以内)		3 回以内 (開花後は 2 回 以内)		
	雪腐菌核病			根雪前					
らっかせい	褐斑病、黒渋病 灰色かび病	1500~2000		収穫 7 日前 まで	4 回以内		5 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後 は 4 回以内)		
	茎腐病 そうか病	1500							
やまのいも	葉渋病、炭疽病	800	収穫 45 日 前まで	5 回以内	5 回以内				
やまのいも (むかご)									
ばれいしょ	菌核病	1000~1500	収穫 7 日前 まで	5 回以内 (種いもへの処理 は 1 回以内)					
かんしょ	黒斑病	200~500	植付前		1 回	20~30 分間種い も又は苗 茎部浸漬			
さといも				20~30 分間種い も浸漬					
キャベツ	菌核病	1000~1500	100~300 ℓ/10a	収穫 3 日前 まで	2 回以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後 は 2 回以内)		
	根朽病	1000		収穫前日 まで				5 回以内	6 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後 は 5 回以内)
かぼちゃ	白斑病			1500	収穫 7 日前 まで		3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後 は 2 回以内)		
	はくさい			1500~2000					
ブロッコリー	菌核病	2000		収穫 14 日 前まで	2 回以内		4 回以内 (種子への処理は 1 回以内、灌注は 1 回以内、散布は 2 回以内)		
レタス	すそ枯病	1500		収穫 7 日前 まで					
	菌核病、灰色かび病	1500~2000		収穫 45 日 前まで	1 回		灌注		
非結球レタス	菌核病、灰色かび病	1500~2000		1.5 ℓ /m ²	収穫 21 日 前まで		2 回以内	散布	3 回以内 (種子への処理は 1 回以内、は種後 は 2 回以内)
すいか	菌核病 炭疽病				100~300 ℓ/10a				

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数	
メロン	つる枯病 陥没病	1500~2000	100~300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	5回以内 (種子への処理は1 回以内、塗布は1 回以内、散布は3 回以内)	
きゅうり	菌核病、灰色かび病 炭疽病、うどんこ病 黒星病、つる枯病							
うり類 (漬物用)	つる枯病、炭疽病 うどんこ病 灰色かび病							
にがうり	炭疽病、斑点病							
トマト ミニトマト	葉かび病、菌核病 灰色かび病							
なす	黒枯病、菌核病 灰色かび病							
アスパラガス	茎枯病、立枯病	1000		収穫開始 7日前まで	5回以内		3回以内	6回以内 (種子への処理は 1回以内、は種後 は5回以内)
てんさい	褐斑病	2000~3000		収穫7日前 まで				
ズッキーニ	うどんこ病	1500		収穫前日 まで	3回以内		3回以内	4回以内 (種子への処理は 1回以内、は種後 は3回以内)
ピーマン	黒枯病	4000~6000						
オクラ	葉すす病	1500						
ししとう	黒枯病	10000						
セルリー	斑点病	1500	収穫60日 前まで	2回以内	3回以内	3回以内 (種子への処理は 1回以内、は種後 は2回以内)		
せり	葉枯病		収穫14日 前まで					
れんこん	褐斑病		収穫前日 まで	3回以内	3回以内			
食用ゆり	鱗茎さび症	50	—	植付前	1回	球根 瞬間 浸漬	1回	
みつば	菌核病	2000	100~300 ℓ/10a	収穫14日前 まで ただし、伏せ 込み栽培は 伏せ込み前 まで	2回以内	散布	3回以内 (種子への処理は 1回以内、は種後 は2回以内)	
食用べにばな (花)	炭疽病	1500		収穫14日 前まで				
みしまさいこ		1000		収穫30日 前まで				
たらのき	芽枯症	2000	0.1~0.3 ℓ/m ²	伏せ込み後 萌芽前 但し、収穫21 日前まで	1回	駒木 散布	3回以内 (伏せ込み前は2 回以内、伏せ込 み後は1回以内)	
	そうか病	1500	200~700 ℓ/10a	伏せ込み前 但し、収穫60 日前まで	2回以内	散布		
しょうが	いもち病	1000	100~300 ℓ/10a	収穫7日前 まで			2回以内	

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数	
ねぎ	小菌核腐敗病	1000	100~300 ℓ/10a	収穫7日前 まで	3回以内	散布	5回以内 (種子への処理は 1回以内、苗根部 浸漬及び苗床灌注 は合計1回以内、 散布及び株元散布 は合計3回以内)	
		250	チエノボット 1冊(30× 60cm、土 壌量約5 ℓ)当り 1ℓ	定植直前				1回
	萎凋病 小菌核腐敗病	20	—			3分間 苗根部 浸漬		
		200		30分間 苗根部 浸漬				
たまねぎ	小菌核病	1000	100~300 ℓ/10a	収穫前日 まで	6回以内 (但し定植 後は5回 以内)	散布	7回以内 (種子への処理は 1回以内、苗根部 浸漬は1回以内、 無人ヘリ散布は3 回以内、散布は5 回以内)	
	灰色腐敗病	500~1000		—				定植直前
		500	—					
葉たまねぎ	黒点葉枯病	1000	100~300 ℓ/10a	収穫14日 前まで	3回以内	散布	4回以内 (種子への処理は 1回以内、は種後 は3回以内)	
いちご	うどんこ病		—	—		株冷蔵栽培 の株冷蔵前		5分間 株浸漬
	萎黄病					300~500		
にら	白斑葉枯病、乾腐病	1000	3ℓ/m ²	収穫21日 前まで	1回	灌注	2回以内 (種子への処理は 1回以内、は種後 は1回以内)	
						茶	炭疽病、白星病 褐色円星病 輪斑病	1500~2000
桑	裏うどんこ病	1500~2000	100~300 ℓ/10a	—	3回以内	3回以内	3回以内	
	汚葉病 輪斑病	1000~1500						
オリーブ	梢枯病	1000	200~700 ℓ/10a	収穫30日 前まで	2回以内	2回以内	5回以内 (塗布は3回以 内、散布は2回 以内)	
ばら	うどんこ病、黒星病	1500~2000	100~300 ℓ/10a	—	5回以内	散布	5回以内	
シクラメン	灰色かび病							
ゆり	葉枯病、茎腐病							
きく	褐斑病							
さくらそう	灰色かび病							
カーネーション	芽腐病							
けいとう	茎腐病、輪紋病							
ほおずき きんせんか	半身萎凋病							
樹木類 (つつじ類、かし、 さくら、じんちよ うげ、ぼけ、ポプ う、いぬつげを 除く)	炭疽病	1000	200~700 ℓ/10a	発病初期	5回以内	散布	5回以内	
	うどんこ病、ごま色 斑点病、輪紋葉枯病、 斑点症(シュトサコシア菌)							

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数	
観賞用アスパ ラガス	茎枯病	500~1000	100~300 ℓ/10a	—	5回以内	散布	5回以内	
さくら	幼果菌核病	1000~1500	200~700 ℓ/10a	発病初期				
	炭疽病	1500~2000						
	うどんこ病、ごま色 斑点病、輪紋葉枯病、 斑点症(シュドサコスポウ菌)	1000						
かし	炭疽病	1500~2000	1000					
	紫かび病、うどんこ 病、ごま色斑点病、 輪紋葉枯病 斑点症(シュドサコスポウ菌)	1000						
じんちょうげ	炭疽病	1500~2000	1000					100~300 ℓ/10a
	黒点病、うどんこ病、 ごま色斑点病、輪紋 葉枯病 斑点症(シュドサコスポウ菌)	1000						
ぼけ	炭疽病	1500~2000	1000					
	褐斑病、うどんこ病、 ごま色斑点病、輪紋 葉枯病 斑点症(シュドサコスポウ菌)	1000						
ポプラ	炭疽病	1500~2000	1000		200~700 ℓ/10a			
	マルガニサ落葉病、うど んこ病、ごま色斑点 病、輪紋葉枯病 斑点症(シュドサコスポウ菌)	1000						
いぬつげ	炭疽病	1500~2000	1000					
	うどんこ病、ごま色 斑点病、輪紋葉枯病 斑点症(シュドサコスポウ菌) 枝枯病	1000						
花き類・ 観葉植物	菌核病	1500	—	100~300 ℓ/10a		発病初期		
つつじ類	褐斑病	1500~2000	—					
	炭疽病						1000	
りんどう	花腐菌核病	1500倍		—		1回		球根 粉衣
チューリップ	球根腐敗病	球根重量の 0.1%	—	植付前又は 貯蔵前				
べにばな	炭疽病	1500	100~300 ℓ/10a	—		2回以内	散布	3回以内 (種子への処理は 1回以内、は種後 は2回以内)
食用ぎく	褐斑病			収穫28日 前まで				
らっきょう	乾腐病	1000	700ミリℓ /m ²	収穫7日前 まで	3回以内	株元 灌注	3回以内	
いね科牧草	雪腐大粒菌核病	1500~2000	100~300 ℓ/10a	根雪前	2回以内	散布	2回以内	
まめ科牧草	菌核病	2000	1回		1回			
あけび(果実)	うどんこ病	1000	200~700 ℓ/10a	収穫7日前 まで	3回以内		3回以内	
たばこ (苗床)	腰折病	1000~2000	2ℓ/m ²	苗床期	2回以内		2回以内	
	黒根病	1000						

作物名	適用病害名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	珒ファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数
みかん	そうか病	30	8% /10a	4～6月	5回以内	空中 散布	8回以内 (塗布は3回以内、 散布、空中散布及 び無人機散布は合 計5回以内)

作物名	適用場所	適用 病害名	使用量	使用 液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	珒ファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数
トマト	温室、ガラス室 ビニールハウス等 密閉できる場所	灰色かび病	100～200 g/10a	5% /10a	収穫前日 まで	5回 以内	常温煙霧	6回以内 (種子への処理は 1回以内、は種後 は5回以内)

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきることを。
- ボルドー液との混用はさけること。
- かんきつの貯蔵病害防除に使用する場合には、青かび病、緑かび病、軸腐病、黒斑病、灰色かび病には有効であるが、黒腐病には効果が劣るので、黒腐病防除が主体の場合には使用しないこと。
また、収穫前3週間以内〔かんきつ(みかんを除く)の場合には収穫前2～3週間の間〕に1回散布すると効果的である。
- りんごの腐らん病防除に対する本剤の使用は生育期における病菌の感染侵入阻止を目的として散布するので、生育期の通年散布とすること。
- ぶどうに使用する場合、幼果期以降の散布は果粉の溶脱や果実の汚れを生じるおそれがあるので注意すること。
- いちごの萎黄病防除に使用する場合には下記の注意を守ること。
 - ◆ 萎黄病多発地では本剤の浸漬処理、灌注処理のみでは効果が不十分な場合もあるので、植付前には土壌くん蒸を行い、本剤処理との組み合わせで防除すると有効である。
 - ◆ 本剤の灌注処理は土壌の種類や条件によって効果に差が認められるので、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
 - ◆ 萎黄病は、土壌温度の高いとき(20℃以上)に発生しやすいので、本剤のかん注処理は地温の高い仮植時期に処理すること。
 - ◆ 灌注処理の場合、土壌条件などによって葉色が劣ったり、多少生育抑制の見られる場合もあるが、その後の生育や収量の影響は認められていない。
 - ◆ 根部浸漬の場合は、浸漬時間が長く(所定時間以上)になると薬害(活着不良)を生じるおそれがあるので、処理時間を厳守すること。
- いちごのうどんこ病防除に使用する場合は下記の注意を守ること。
 - ◆ 本剤による株浸漬処理は、株冷蔵栽培いちごの定植時に、無病苗を得るため、冷蔵前に処理するものである。うどんこ病の発生まん延時期の防除とは異なるので注意すること。
 - ◆ 浸漬処理薬液が葉裏まで十分付着するように薬液には展着剤を加用し、水洗した苗株を株全体が漬かるように浸漬し、苗を薬液中で2～3回上下にゆすること。
 - ◆ 本剤処理した苗株は、水洗せずに半乾きとした後、ビニール袋に入れ、慣行に従って冷蔵すること。
 - ◆ 冷蔵後、定植前の処理では、効果が劣ることがあるので、必ず冷蔵前に処理すること。
 - ◆ 本剤処理に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- いちじくに対して灌注処理する場合は次の事項に注意すること。
 - ◆ 1ヶ月間隔で使用することが望ましい。
 - ◆ 生育抑制などの薬害を生じるおそれがあるので、ポット栽培などの根域が抑制される栽培条件での使用はさけること。
- 水稻の種子消毒に使用する場合は、下記の注意を守ること。
 - ◆ 消毒後は水洗せずに浸種又は播種すること。
 - ◆ 浸漬処理薬液の温度はなるべく10℃以下を避けること。
 - ◆ 籾と浸漬処理薬液の容量比は1：1以上とし、種籾はサラ網などの目のあらい袋を用い、薬液処理時によくゆすること。
 - ◆ 低濃度(300～500倍)長時間浸漬の場合は、薬液浸漬処理中1～2回攪拌すること。
 - ◆ 本剤処理を行った種子の浸種に当たっては次の注意を守ること。
 - ① 薬剤処理した種籾は少なくとも数時間は放置して風乾後浸種すること。
 - ② 浸種は停滞水中で行うこと。
 - ③ 浴比は1：2とし、水の交換は原則として行わないこと。但し、液温が高温の場合など、酸素不足になるおそれがあるときには静かに換水すること。
 - ◆ 薬液処理した種子は、食料、飼料に使用しないよう注意すること。
- 麦の雪腐病防除に使用する場合は、散布液量は10アール当り100%が標準である。なお、1回散布の場合にはなるべく根雪近くに行くと効果的である。
- 小麦の少量散布で使用する場合は、少量散布に適したノズルを装着した乗用型の速度連動式地上液剤散布装置を使用すること。
- チューリップの球根粉衣は、植付前又は貯蔵前に球根1kgに対し、本剤1gを均一に粉衣すること。
- 本剤を大型散布機で使用する場合には、各散布機種種の散布基準に従って実施すること。
- 本剤は、連続使用によって一部の病害に耐性菌が生じ、効果の劣った事例があるので、過度の連用をさけ、なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせて輪番で使用すること。

- 大豆の紫斑病に対しては、落花後～若莢期に2～3回散布する。
- 大豆の紫斑病防除には種子消毒のみでは不十分なので、生育期の散布による防除と組み合わせて使用すること。
- 果樹の白紋羽病に対し、灌注処理する場合は樹幹部周辺の土壌を木の大きさに応じて掘りあげ、根を露出させ、病根をていねいに除去したのち、所定濃度の希釈液を一本当り成木では200～300ℓ、苗木では20～30ℓかん注すること。
- かんしょ、さといもの種いも消毒後は水洗せず薬液が乾いてから植付けること。薬剤処理した種いもは食料、飼料に使用しないこと。
- アスパラガスの茎枯病の防除は収穫打ち切り後、残茎を取り除き、新しく萌芽した茎を対象とすること。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。また、桑に使用后3日間は蚕に桑葉を給餌しないこと。
- ハウスなどの常温煙霧用として使用する場合は下記の注意を守ること。
 - ◆ 専用の常温煙霧機により所定の方法で煙霧すること。特に常温煙霧装置の選定及び使用に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けること。
 - ◆ 作業はできるだけ夕刻行い、作業終了後6時間以上密閉すること。できれば翌朝までとすること。
- たばこの親床での処理は播種後10日目から1週間間隔で、子床での処理は仮植後7日目から1週間間隔で薬液を散布すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗すること。
- ❖ 使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。
作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ❖ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ❖ かぶれやすい体質の人は取り扱いに十分注意すること。
- ❖ 常温煙霧中はハウス内へ入らないこと。
また、常温煙霧終了後はハウスを開放し、十分換気した後に入室すること。
- ❖ 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用后（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(魚類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。